

平成20年7月17日

(OPRT情報提供)

「米国ビンナガマグロ漁業者も燃油高騰で苦境」

WFOA（西部漁船船主協会・本部米国カリフォルニア州 ビンナガマグロトロール漁船約400隻所属。本年1月からOPRTの賛助会員）が7月17日、OPRTに伝えてきたところによれば、燃油高騰で米国ビンナガ漁船の経営維持が困難となっている。

ハイキッラ WFOA事務局長によれば、「今や生き残れるかどうかだ。燃油価格は、2002年から600%も値上がり。だが、ビンナガの値段は、今でも、1980年代の価格のまま。米国西海岸から400マイル沖の主漁場へ行くのに、1年前は、1,500米ドルだったのが、今は、2,500米ドルかかる。」

WFOAは、国会議員に燃油高騰救済を求めているが、他方、会員漁業者が、これまで輸出を主力にしてきた販売戦略を国内市場に向け、レストラン、食料品店等と連携し、新たな流通チャンネルを構築する支援を行っている。（米国ビンチョウ漁船が水揚げするビンチョウマグロのうち、国内消費は20%程度。他は缶詰原料として輸出。）

(問合せ先)

(社) 責任あるまぐろ漁業推進機構
事務局長：田端 事業部長：人見
TEL：03-3568-6388
FAX：03-3568-6389